

2021/2/14

(うとQ世話し 苦手)

(以下、当時の言葉をそのまま使っているだけで、特に差別の積もりはございません)

平成の初めの頃のお話です。

大企業在籍で、高等教育迄受けているのに車の免許がなかったので

「平成のいざり」と言われ

当時導入初期のパソコンも「天敵」状態で

「平成の文盲」「デジタル難民」更には部下から「パソコンが全然似合わん」と迄囁かれる始末で、いい加減ノイローゼ気味になっておりましたが、暫くして、その無能ぶりから今で言う上司のパワハラに遭い、とうとううつ病を発症。

親会社では「役に立たたん」と子会社に転籍させられました。

が、行ったその先で、全く畑違いの営業の仕事で客先に赴き、見積書を提出した処、自分より遙かに若い女性担当者から

「あんた、資本主義の一から勉強して来」

と公衆の面前で罵倒され、見積書を粉々に引き裂かれた末、ドサ廻り大衆演劇の紙吹雪の如く、見積書が客先フロアに天高く舞うのに接し、

「こんな姿を妻子に見られたら」

と思うと「消えてしまいたい」「死んでしまいたい」気分になりました。

それが子会社の新上司の知る処となり、結果、外回りからは外され、仕事も与えられず、やる事無しで一日中「パソコンで仕事をしている振り」の「暇過ぎ無限生き地獄」を味わわれました。

当然帰宅しても、元気のある訳がなく、自棄酒を飲むと奥さんから鬨感を買いそうなので、仕方なく煙草ばかりをパカパカ吹かしていると、奥さんばかりか子供にまで嫌われ、会社に行くも地獄、家に帰るも地獄状態となっておりますが、その地獄より、先に申し上げました「暇過ぎ無間地獄」の苦しきの方が結果的に他を押し、

「どうせ時間が腐る程あるなら、一層一から分らない事を全て自分なり解る迄考え直してみようか？」と半ばや自棄気味に思い立ちました。

「どうせ直ぐになんか解りっこないから、時間潰しにはもってこいだし。解れば御の字。解らなくても暇よりはマシ」

と始めた訳ですが、案に違い、之が暫くする内に一進一退ながらも、解き方のバリエーションが拡がり、いつしか夢中になっておりました。

そうして、ほぼ偶然からだったのですが、最初の「解らない事」が自分なりに解けたのが、始めてから約半年後の事。

その時の喜びたるや。

「出来た。自分にも。自分のような者にも時間をかけて諦めさえしなければ、半分は偶然の他力本願だが、それでも曲がりなりにも出来るのだ」

と驚いた次第。

その時思ったのは、得意な事でうまくいく喜びよりも

「苦手を克服した時の喜びの方が遙かにデカイ」

と言う事でした。

得意な事でうまくいっただけだと、それ以外の方法を得られないので、苦手に対する認識も遭遇時の対処法も得られませんが、苦手を克服すると「鼻から捨てていた選択肢」を思いがけず拾う事になるので「お得感」と共に「避けていた地雷原の範囲」が狭まり世界がグググッと広がって「自由往来度、劇的 up」の感がございました。

では又。